



# ごりようかく

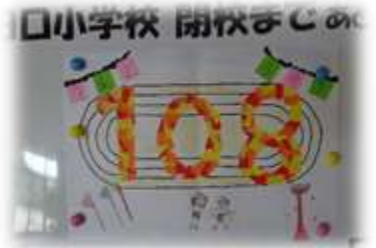
文責:長澤永子(教頭) Tel0267-82-2331



運動会へのたくさんの応援ありがとうございました



練習の段階では雨の日も多く、心配も多かった日々ですが、当日は天気も良く、最高の気分で運動会を迎えることができました。エネルギーな子どもたちを見ているととても元気をもらいます。校庭に響き渡る応援の声、地面をカー杯蹴り上げる姿、力強く、かっこよく、目をキラリとしながら表現している姿、友だちと心と知恵を働かせ走る姿。相手に引かれ始めた棒を諦めず引っ張り続ける姿。練習では苦戦していた組み体操だったけど、本番の集中力はすごい！技の一つ一つに子どもたちの思いが伝わってきた組み体操。そして最後は、子どもたちと共に有終の美を飾った「花いっぱい」。地域に学校がある良さを感じました。コロナ予防対策等、不安材料がありましたが、今できることを精一杯やろうという精神で大成功の運動会でした。ありがとうございました。



## ◆思い出の一枚◆



保護者の皆様には、健康チェック、感染対策、片づけにご協力いただき感謝申し上げます。ありがとうございました。

## ◆伝統の峠マラソン・遠足に向けて◆

運動会の振替休みが終わった日から子どもたちはマラソン一色。子どもたちが朝休み時間からこんなに校庭でマラソンをしている学校は、日本中探してもどこにもないと言えると思います。伝統の峠マラソン・遠足は10月15日（土）予備日10月28（金）に実施します。1・2年生は湖月荘跡地までのウォークラリーです。苦しい道のりになるとは思いますが、練習を重ね、頑張ってきた成果を出し切り、田口っ子のすごい力を見せてくれると思います。今年度は70名を超えるボランティアの方々に集まっていただきました。感謝です。応援をお願いします。また、今年度は閉校記念峠マラソン・遠足ということもあり、当日の開会式では、消防団第15分団による記念放水が行われます。こちらもお楽しみにしてください。



校長室だより

### 田口峠マラソンと iPS 細胞

校長 井出 誠一

「この距離を本当に子どもたちが走るの!？」

運動会が終わった日の午後、田口峠マラソンのコースを車で下見をして驚いた。ゴールまで12.5kmという距離に加え、延々と続く上り坂。私がこれまでに在職した学校のマラソン大会とは規模も難易度も異なる。

「昔は途中で水分補給ポイントなどなく、道路脇の湧き水を飲んで走ったものです。」

ご自身の田口峠マラソンの体験談を懐かしく語る卒業生の方の笑顔の意味が、改めて分かった気がした。

京都大学の山中伸弥教授が iPS 細胞の研究でノーベル賞を受賞したのは2012年、今から10年前のことである。iPS細胞とは、「人工多能性幹細胞」の略で、「さまざまな体の組織や臓器の細胞に変化する」「ほぼ無限に増殖する」の2つの特徴を持つ。これは、子どもたちが本来持つ可能性に似ている。子どもたちは、将来、何者にもなり得る可能性を持っている。そして、その可能性は無限である。

私たちは、子どもたちの支援にあたり、「配慮」という名の下にその可能性に制限を設けてしまっていないだろうか。大人の勝手な思い込みにより、ゴールの設定目標を引き下げたり、必要の無い支援を施したりしていたとするならば、それは、子どもの可能性を狭めることになってしまう。本当に必要な支援を講じた上で、勇気を持って子どもの力を信じるのが、この田口峠マラソンの神髄であると感じた。ここまで田口峠マラソンをつないできた地域の方々の心意気にも改めて敬意を表したい。

苦しい田口峠マラソンを走りきった満足感は、子どもたちにとって、その後の人生の大きな糧になる。給水ポイントでいただいた水がのどを通る爽快感、ゴールでほおばるおにぎりのおいしさ。これらは、かつて道路脇の湧き水を飲んで走った卒業生の方の思いにも通ずるだろう。そして、大人になった彼らが、懐かしくそして誇らしくこの田口峠マラソンのことを振り返る日がきっと来るはずである。

## 新小学校の児童数と学級数

新小学校の児童数とクラス数は現時点で以下のとおりとなっています。今後、転居等による転出予定がある場合は、学校までお知らせください。

学年	児童数	学級数	学年	児童数	学級数
1学年	78名	3学級	5学年	89名	3学級
2学年	108名	4学級	6学年	89名	3学級
3学年	77名	3学級	支援級	37名	5学級
4学年	100名	3学級	全校	578名	24学級